

【支援先からの活動報告】

2025 年 12 月 8 日

今回は東京都葛飾区の NPO 法人「ハーフタイム」の三枝理事長様から日頃の子ども達への支援状況全般についてご報告頂きました。三枝理事長様からのご報告は今回で 3 回目。概要は次の通り（文末に三枝様のプロフィールを記載しています）。

1. 現在の活動状況です。

「ハーフタイム」は主に東京都葛飾区において、「貧困、虐待、いじめ、不登校、引きこもり、障害、非行などさまざまな生きづらさを抱えた子どもたちに寄り添う団体」として活動をしています。現在も小1から高校生在籍中の 30 名、さらに最近は高校を卒業しても来訪して来る卒業生が増えて 13 人、合計で 43 名を支援しています。

この中には、14 年以上も支援を続けている人が 2 人。子ども達は生活保護世帯、ひとり親家庭、不登校・引きこもり、虐待被害経験のある子、いじめ被害経験のある子、障害児、児童精神科入院経験や一時保護所・児童福祉施設入所経験のある子など複数の問題を抱えています。大半は学校、児童相談所、福祉事務所、児童福祉施設など関係機関からの依頼を受けたケースであり、関係機関だけではなかなかできない部分を連携しながら支援を展開しています。

こうした「生きづらさ」を抱えた子ども達が、信頼のおける大人との間で信頼関係を構築し、抱える「生きづらさ」を「とも」に悩みながら思春期を乗り越え、まずは安心・安全を感じ、その中で「生きる力」を高め、将来、社会的に自立して行くことを応援しています。

2. 具体的な活動は主に拠点型事業（たまり場）、個別対応型事業、生活訓練事業（レク）、情報提供事業などを行っています。この活動を支えてくれているのが大学生（38 人）や社会人（79 人）のボランティアメンバーです。

この中で一番力をいれているのが拠点型事業で、「ここだと安心して過ごせる」という拠点作りを目指しています。葛飾区の立石地域では毎週月曜日（13 時～22 時）、金町地域では毎週水曜日（13 時半～20 時半）、最近は卒業生が増えたため、そのほか月 2 回の土日（13 時半～21 時）の卒業生用の拠点も新設しています。

拠点では、子ども達とボランティアスタッフが一緒になって、お料理を作ったり、裁縫教室、わんこそば大会などを企画したり、あるいはまったく何もしないでのんびりする「まったり」の時間を設けて過ごすなどいろいろ工夫しています。今年の 3 月は不登校で中学卒業式にも行けなかった子の卒業証書授与式なども行ないました。

3. 一方、個別対応型は本当にいろいろな事があります。不登校の子ども達とは室内でゲーム遊びや飼い犬との散歩、パフェ作り、気晴らしに原宿散歩、ゲームプログラミングに興味がある子とはゲームイベントへの訪問、不登校中学生と高校文化祭見学、高校未就学者には職能センター見学、体調の悪い子には病院への付き添い、高校受験を目指す子には勉強会、就労を目指す子には合同企業説明会への付き添い等々。できるだけ一緒に付き添い、時にはひとりの子どもに複数の大学生がサポートするなど子ども達の気持ちに寄り添いながら対応しています。

4. また、情報提供事業は今年度は従来以上に力を入れています。5 月には大妻女子大学でボランティア募集説明会などを行うほか、10 月にはハーフタイム主催の講演会を行い、葛飾区児童相談所の職員の方にも登壇して頂きました。大学生、学校の先生、スクールカウンセラーの方などスタッフを含め 42 名の方に集まって頂き、ハーフタイムの事を知って頂きました。

5. 日本善意財団様からは毎年大変なご支援を頂いています、年間 39 万円のご寄付と「お米つながプロジェクト」で毎月 10Kgのお米を頂いています。2024 年はお料理を作るための食材・給食費などで約 20 万円、消耗品で 21 万円ほど使わせて頂きました。子ども達を外に連れ出した時に、ファミレスやお祭りの屋台などで食べさせたり、ささやかなお土産を買ったり、ちょっとしたことにお金可以自由に(規制なく)使える有難さを常に実感しています。

毎年お正月には子ども達にお手紙とちょっとしたプレゼントを贈っていますが、T シャツを持たない子やトートバッグも買えない子にそれぞれ贈ったところ、毎日使ってくれています。日本善意財団様からのお金は本当に子ども達にとって大きな支えとなっています。

6. さて、昨年は支援中の子ども達の中から、3 人の事例についてご紹介しました。

(1) H 子さんは 9 年前に小6で転居して来た時、対人不安で中3まで不登校が続いていました。このため週 1 回、H さんの家庭を訪問して、一緒に勉強したり、社会性を回復するために高校の文化祭などにも一緒に出掛けるなど支援しました。無事に高校に進学できた後はみるみる社会性と学力を向上させ、体育以外はほぼ評定「5」の成績を取れるまでになり、部活や生徒会にも参加して、高 2 夏からはハーフタイムに進路の相談をしてくるまで将来の話ができるようになりました。

一昨年 11 月に英検準 2 級に合格。さらに昨年 7 月に英検 2 級に合格し、昨年 11 月には志望大学にも合格。英検 2 級を持っていたことから、大学独自の奨学金制度で入学時納入金が減額され、今年 9 月には 3 週間無償で海外へ交換留学へ行って来ました。

前回、Hさんからの「ハーフタイムがなかったら4年制大学を目指そうともならなかった」との話を紹介しましたが、中学3年間不登校でも、寄り添いを通して大学進学・海外留学まで実現が出来た本当に嬉しいケースです。

(2) 二人目はR子さん。兄と弟が不登校で、母子家庭で生活保護世帯。「家での話し相手はぬいぐるみだけ」と話していた子です。学校、教委、福祉事務所、子供家庭支援センター等でも対応が足りず、ハーフタイムが支援依頼を受けることになり、3年前の中1から来訪を開始しました。当初は困難な時期もありましたが、少しずつハーフタイムに馴染みはじめ、長い時には一日10時間も居るようになり、ハーフタイムが大好きな居場所になりました。

その後無事に高校に進学でき、部活にも入り高校生活も順調に過ごしています。高校卒業後は専門学校に行きたいと希望を話すようになっています。

(3) 三人目はA子さん。中2から寄り添いをはじめ、今は24歳。もともと中2の時からいじめや虐待に遭い、不登校、リストカットなどがあったため10年以上支援をしています、昨夏に相談があり、多額の借金があることが判明しました。

なんとか借金の返済ができないかと、本人に付き添って、障害年金の手続きの手伝い、ローン会社に返済猶予交渉なども行いました。今は親元を離れ、生活保護で単身生活を始め、少しずつ就労の方向で支援を継続しているところです。

7. 今回はJさんのケース。中2から不登校で高校にも進学せず、現在は18歳。母親、弟の3人暮らしの生活保護世帯。本人・母親ともに精神障害があり、弟は引きこもり状態。本人は精神科入院歴もあります。

母親からの虐待もあり、1年前から関係機関からの紹介で「ハーフタイム」で毎週1回本人に会って寄り添い支援をしています。母親との関係性が難しく、関係機関と連携しながら、親元を離れる方法を相談中です。

本人は高校進学を希望しており、なんとかそれも実現させてあげたいです。今後どう寄り添って行くかを思案しているところです。

8. 上記事例の通り、ハーフタイムが支援している子ども達はいろいろな困難や生きづらさを抱えています。なんとかしてこうした子ども達に寄り添い、「生きる力」を与えて行きたいと思います。ハーフタイムは大学生や社会人スタッフのボランティアや日本善意財団様のような支援団体からの寄付等によって成り立っています。

今後とも、日本善意財団さんからも継続的な暖かいご支援を、何卒宜しくお願い致します。

以上

.....
特定非営利活動法人ハーフタイム 理事長

三枝 功待(さいぐさ こうじ) さん(38)のご紹介

早稲田大学法学部在籍中は、非行少年の更生支援に関わりたいという関心を持ち、少年法を専攻した。大学サークルでも子ども支援のボランティア活動に従事し、少年院から出た来たばかりの少年を支援する「BBS 会」で活動していた。

3 年生(20)の時に葛飾区の関係者から「行政の手が届かないところをサポートして欲しい」と学生の派遣の要請が来た。

これを受けて、葛飾区で「ハーフタイム」を立ち上げ、自分が学生代表となり 3 人のメンバーと一緒にボランティア活動を開始した。

その後、大学院に進学し、修士課程を終えて、博士課程後期の 28 歳の時に大きな決断を迫られる。このまま進学して博士課程を終えるか、「ハーフタイム」という現場に専念するか。当時の「ハーフタイム」の年間予算は数十万円。とても生活はできない。どっちに人生をかけるべきか。

最終的に、子ども達を見捨てるわけにはいかないと、「ハーフタイム」の専従を選んだ。生活的には苦しい時代が続き、33～34歳になってようやく自分の生活費はもらえるようになった。現在、38 歳。最近、長年住んでいた早稲田大学の近くから、この「ハーフタイム」の 2 拠点がある葛飾区に転居した。ここに根をおろしてこれからも支援活動が続けるとのことである。